

エボリューション

**【警告】

使用方法

- ・本装置を使用した状態での酸素流量を処方すること。
- ・カニューラ及びチューブが折れ曲がらないようにすること。
- ・吸気異常アラーム発生時は直ちに鼻カニューラが正しく装着されているか、ねじれていないか、又は口呼吸していないか、確認すること。

**【禁忌・禁止】

適用対象（患者）

- ・1 分間に 40 回以上呼吸をする人は使用しないこと。
- ・鼻呼吸が出来ない人（口呼吸者）は使用しないこと。
- ・生命維持のために酸素吸入を必要とする人に使用しないこと。

併用医療機器

本装置を加湿器と共に使わないこと。

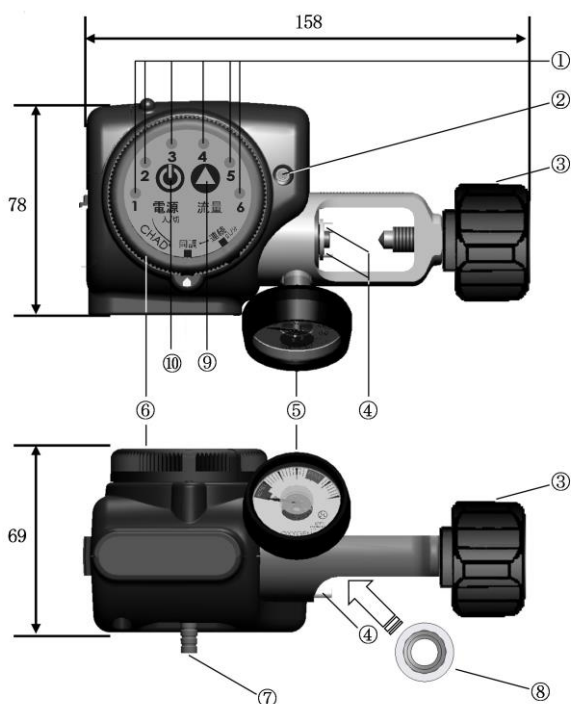
使用方法

- ・本装置に落下等による衝撃が加わった場合は使用しないこと。
- ・喫煙・線香等を含めて、火気から 2m 以内で本装置を使用しないこと。
- ・本装置の近くでスプレー類、高可燃性物質を使用しないこと。
- ・本装置を睡眠中に使用しないこと。

【形状・構造及び原理等】

**形状

外観図



機能

各部の名称及び機能

番	名称	各部の機能
1	流量表示灯	同調ごとに設定流量を緑点灯により表示する。
2	電池残量表示灯	電池電圧低下アラームを発生する。
3	取付ハンドル	酸素ポンベに本装置を固定する。
4	位置調整ピン	酸素ポンベ取付け時の位置決めをする。
5	酸素残量計(圧力計)	酸素ポンベの酸素残量を表示する。
6	連続切替ダイヤル	電池切れ又は故障時、連続供給に切り替える。
7	酸素供給吐出口	供給出口として酸素を吐出する。
8	バックシン(ガスケット)	酸素ポンベからの酸素の漏れを防ぐ。
9	流量設定ボタン	酸素流量を調節する。
10	電源スイッチ	電源の入/切の設定をする。

付帯機能

吸気異常検出

患者の呼吸が約 30 秒間検出されないと、アラームが鳴る。

作動・動作原理

本装置は、同調モードと連続モードの 2 つを有する。同調モードでは、呼吸の陰圧を感知し、吸気の間だけ酸素を供給する。酸素供給源からの酸素ガスは、装置に内蔵されている減圧機構で減圧され、バルブへと送られる。一方、患者の吸気するとき、鼻カニューラを通じて陰圧をセンサで検出し、その信号をマイクロコントローラへと送る。マイクロコントローラは信号を受け取るとバルブを一定時間開放させ、鼻カニューラを通じて、酸素ガスを患者に供給する。他方、連続モードでは、減圧された酸素はバルブを迂回し、呼吸に関係なく連続的に供給される。

仕様

1.寸法：158×69×78mm（突起部を除く）

2.重量：418g

3.流量設定値

(1)同調モード流量

- ・MODEL OM-901J：1,2,3,4,5,6,7L/分相当
- ・MODEL OM-902J：0.5,1,1.5,2,2.5,3,4L/分相当
- ・MODEL OM-903J：1,2,3,4,5,6L/分相当（吸気異常アラーム付き）
- ・MODEL OM-904J：0.5,1,1.5,2,2.5,3L/分相当（吸気異常アラーム付き）

(2)連続モード流量：約 2L/分

4.使用環境

使用可能酸素圧：1.38～20.68MPa

動作温度：-10～40℃

動作湿度：15～95%（結露なきこと）

【使用目的又は効果】

鼻カニューラを用いて医療用酸素ポンベから供給される酸素の流量を調節し、呼吸に同調して供給することで酸素の消費を低減する。

【使用方法等】

設置方法

使用前の準備

- 1.電池ケースのふたを開け、極性に注意して単 3 アルカリ乾電池を入れ、電池ケースのふたをパチッと音が鳴るまで閉じる。
- 2.取付ハンドルをゆるめる。
- 3.バックシンがきちんと取付けられているか確認する。
- 4.本装置の位置調整ピンを酸素ポンベのバルブ穴に合わせる。
- 5.取付ハンドルをしめる。

取扱説明書を必ずご参照ください。

使用方法

- 1.鼻カニューレを酸素供給吐出口に取付ける。
- 2.鼻カニューレを正しく装着する。
- 3.連続切替ダイヤルが“同調”の位置にあることを確認する。
- 4.酸素ポンペのバルブを、4 秒以上かけてゆっくりと回し、全開にする。
- 5.圧力計に表示された酸素ポンペの酸素残量を確認する。
- 6.電源スイッチを押し、電源を投入する。
- 7.流量設定ボタンにより医師に処方された流量に合わせる。
- 8.鼻カニューレから吸気に合わせて供給される酸素を吸う。

再使用のために必要な処置

- 1.酸素ポンペのバルブを閉じる。
- 2.電源スイッチを押し、電源を切る。
- 3.鼻カニューレを外す。
- 4.清潔で乾燥した場所に保管する。

使用方法に関連する使用上の注意

- ・水やその他の液体、埃や微粒子が本装置に触れたり入り込んだりしないようにすること。
- ・使用しないときは酸素ポンペのバルブを閉め、酸素供給を止めること。
- ・本装置の付近で摩擦による静電気等の火花が起きないように注意すること。
- ・カニューレは 2m 以下のものを使用し、定期的に交換すること。
- ・マスクや小児科用又は流量の少ないカニューレは使用しないこと。
- ・流量設定ダイヤルが規定の箇所できちんと設定されているか確認の上、使用すること。
- ・本装置を酸素ポンペに取付けた状態で本装置を持って移動しないこと。[本装置に負荷がかかり破損のおそれがあるため。]
- ・本装置及び酸素ポンペを直射日光にさらす等極端な温度下にさらさないこと。
- ・取付け部の締め付け及び開放は手動とし、道具を使用しないこと。
- ・酸素ポンペの酸素残量が十分あることを確認してから使用すること。
- ・電池電圧低下アラーム発生時は直ちに新しい電池に交換すること。[酸素供給が止まり、事故の原因となる。]
- ・十分に充填された緊急用の酸素ポンペを常備すること。

【使用上の注意】

重要な基本的注意

- 1.本装置及び酸素ポンペに破損や汚染物質の付着が認められた場合、使用を停止し取り扱い業者に連絡すること。
- 2.各機器間の接続は取扱説明書にしたがい、確実に行うこと。
- 3.機器及び患者に異常が発見された場合には、患者に安全な状態で機器の作動を止めるなど適切な措置を講ずること。
- 4.パッキンは純正品を使用し、汚れや傷がある場合には交換すること。
- 5.酸素ポンペを横にして本装置を使用しないこと。
- 6.油やグリース、石油製品等を本装置の近くで使用しないこと。
- 7.本装置は医師の処方及び指示にしたがって使用すること。
- 8.在宅等で使用する場合は、使用者に正しい使用方法を教育したのち、使用させること。
- 9.酸素残量計(圧力計)により常に酸素ポンペの酸素残量に注意すること。
- 10.連続モードは緊急用であり、使用する場合には、酸素の消費が早いので注意すること。
- 11.酸素は他の燃焼を助ける支燃性があるので注意すること。
- 12.本装置を使用する前には手を清潔にし、乾かすこと。

**13.下記のような症状または異常が現れた場合は、医師に相談するなどして、適切な処置をとること。

**・強い息切れ、肌や爪の変色

**・強い動悸

**・発熱

**・頭痛

**・強い眠気

**・咳の増加

**・痰の増加・変色

**・尿の減少、手足のむくみ

**・鼻、口、のどの渇きなど

【保管方法及び有効期間等】

保管方法

- ・水濡れ、高温多湿、粉塵及び直射日光を避けて保管すること。
- ・化学薬品の保管場所や有毒ガスのある場所に保管しないこと。
- ・保管条件：周囲温度 -40～70℃
相対湿度 95%以下（結露なきこと）
- ・保管時/運搬時は、振動/衝撃等に注意すること。

耐用期間・使用期間

5 年[自己認証（輸入先データ）による]

【取扱い上の注意】

トラブルシューティング

問題点	予想される原因	解決法
同調モードで動作しない	電池切れ	電池を交換する。
	電池挿入不良	電池の極性(+/-)を正しく入れ直す。
	電池ケースの電極汚れ	布にアルコールを含ませ、電極部を拭く。
	酸素ポンペバルブの閉鎖	酸素ポンペのバルブを開く。
	酸素ポンペが空	圧力計を確認する。空なら酸素ポンペを交換する。
	鼻カニューラの潰れ、ねじれ	潰れ、ねじれをとる。
	流量設定が“連続”	適切な流量に設定する。
	酸素ポンペバルブの急激な開放	装置を外して、再度取付け直す。
絶え間なく同調し続ける	鼻カニューラが取付けられていない	2m 以下の標準的な鼻カニューラを取付ける。
電池寿命が短い	アルカリ乾電池が使用されていない	アルカリ乾電池と交換する。

【保守・点検に係る事項】

本体の表面は、乾いた清潔な布で定期的に拭くこと。

使用者による保守点検事項

保守・点検項目	実施頻度	保守・点検内容
使用前店	使用毎	・本体/付属品 ・動作確認

業者による保守点検事項

保守・点検項目	実施頻度	保守・点検内容
全般点検	トラブルシューティングで解決しない問題が生じた時	専用治工具・測定器を使用した点検調整

【製造販売業者及び製造業者の氏名又は名称等】

製造販売業者：日本ルフト株式会社

*住所：〒101-0054

*東京都千代田区神田錦町 2-7-5

*電話番号：03-3518-2001

外国製造業者：Inovo, Inc.（アメリカ合衆国）

取扱説明書を必ずご参照ください。